

本質を捉える力是人権意識

先日、都内のある女性からパワーハラスメント（以下「パワハラ」）の相談を受けました。ある区役所に非常勤職員として勤務していた約一年間、職場でパワハラを受け、あまりに辛い出来事にどうしてよいのかわからず、知人の紹介で山梨ランチに相談にきました。事実関係を把握し区役所に出向き担当部署と何度か話し合いを持ちました。

一部の事実に関しては認めて本人に謝罪をしましたが、全体的には仕事での指導の一環として行ったものでパワハラではないとの説明です。パワハラを行ったとされる当事者数人へのヒヤリング内容については「個人情報保護の観点で教えられない」と、また当事者ではなく人事課長から謝罪だけの対応に「区役所の規定上、これ以上のことができない」とのことでした。



それぞれの事情はあるのは誰にでもわかります。しかし、問題が起きた事実があるのです。パワハラの発端は何だったのか？原因がどこにあったのか？これでは何も明らかにはされません。再発防止にもつながりません。自分たち都合の調査内容が優先されては、着地点が見つかるはずがありません。最も大切なのは被害にあった本人へのケアです。勇気を持って申し出た本人の気持ちを置き去りにしてはいけません。周りの人間にとっては大した問題ではなくても、本人にとっては人生を左右する大きな問題となります。その重大さを考えた上で対応すべきです。

例えば個人情報保護にしても、パワハラを行ったとされる側が守られて、パワハラを受けた方が何も守られないのでは、誰の何のための個人情報保護なのか？は疑問です。どうしたら問題にならないようにできるか？どうしたら責任を問われないのか？を考えているのは本質からどんどん離れて行ってしまいます。本人の立場になって、何が出来るのか？どうすれば解決できるのか？を考えなければいけません。それこそが、人権意識の基本と言えます。

このような図式は、森友学園、加計学園、日大アメフト部の問題にも当てはまるのではないのでしょうか？問題だったことを認めない、責任を背負いたくない、無理でも理不尽でも否定して非がないことを主張する。自分たちだけよければよいという勝手な考え方です。一体、何処に向いて何を守っているのか？国や教育機関として情けない限りです。

いじめの問題も同じです。どれだけ本人の気持ちを想像し寄り添えるのか？の意識が必要です。自分には関係ない、自分でなくてよかった、という意識になっていないか？保身に走っていないか？「人のことを思いやり考える」という人権感覚を持っているかどうか？人権意識は、人の上に立つ立場、指導する立場における最低限の資質だと思います。

活動報告



人権移動教室

6月7日（甲斐市立敷島小学校）、6月12日（甲斐市立竜王小学校）

今年度の人権移動教室が始まりました。小中学校の子どもたちを対象に「大切な命の尊さや人への思いやり」「人としてのやさしさ」を伝える授業です。医師たちが人道援助を行っている「国境なき医師団」の活動紹介などを通して、子どもたちにわかりやすく命の大切さや人権について問いかけています。その感想文は、子どもたちの素直な心が映し出され、大人としてあらためて気づかされることも多く、私たちの宝物となっています。感想文は、人権啓発パネル展で展示されていますので、是非足を運んでいただき、子どもたちが感じた気持ちを一読ください。

今後の予定

- 人権啓発パネル展 7月10日～7月22日（甲府市立図書館/甲府市中央公民館）
- 人権啓発講演会 7月4日（甲府市上下水道局）、7月18日（甲府市環境センター）
- 人権映画上映会 7月21日・10:30～/13:30～（甲府市立図書館）
- 人権移動教室 6月23日（甲府市立富竹中学校）、7月18日（甲府市立朝日小学校）



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ

代表：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室

TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp